

67205

旧番号
IAx(62)

(62)

国債及外債募集ニ関スル件



金融史資料	
分類記号	IAx
整理番号	23(62)
資料名	松尾元総裁 所蔵資料
保管容器	口108

研30009

通貨、金融史料	
分類	IBa ビソ
整理番号	11 27(62)
受入番号	11 3848
名称	松尾元総裁 所蔵資料
備考	

67205

55

國債及外債
法律勅令及省令等
目錄
件

55



國債及外債之實況
募集
件

①



内債及外債の主要な者

内債及外債ニ関スル
法律勅令及省令等

法華寺公及自公地

也極成叶讀三羅云

一國城

帝心憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分勅令

明治三十六年十二月

勅令第百九十一号

第一條

軍備補充ニ要スル經費支辨ニ為政府ハ一時借入金ヲ為シ特別会計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及國庫債券ヲ發行スルヲ得

第二條

京釜鐵道株式會社ノ線路工事速成ニ必要ナル資金ノ調達ニ便宜ヲ與スル為政府ハ同會社ニ發行スル債券ノ對シテ元利仕拂ノ保証ヲ為スルヲ得

前項ニ依リ保証スル債券ノ額面是千萬円ヲ限リ其利子ハ

一箇年六分以下トシ其ノ元金ハ三ヶ年据置爾後五ヶ年以

下償還スルモノトス

第三条

京釜鐵道株式會社に於て工事ヲ達成スル為メ得

要スルキ費用ハ補償トシテ政府同會社に對シ百七十五圓ヲ

補助スルヲ得 但シ已ムヲ得サル事由に依リ其金額ヲ以テ

本項ノ費用ヲ償フヲ能ハサル場合ヲ生シ名中ハ仍百七十五圓以

テ補助スルヲ得

前項補助金ヲ以テ補償スルキ費用ノ支拂に關シテハ特ニ詳密

之監督規程ヲ設クルモノトス

第一項ニヨリ補助スルキ百七十五圓ノ財源ニ充ル為メ政府ハ

一時借入金ヲ為スルヲ得

第四條

第一條及第三條 場合ニ於テ一時借入金又ハ國庫

債券に附スルキ利子ハ一箇年六分以下トシ償還期限ハ一時借

入金に在リテハ二箇年以ハ國庫債券に在リテハ五年以ハ

國庫債券に關シテハ前項規定ニモハ外整理公債條例ヲ適用ス

臨時事件費支弁ニ関スル法律

(明治三十七年三月
法律第一号)

第一條 臨時事件費支弁ノ為政府ハ一時借入金ヲ為シ國庫
債券ヲ發行シ特別会計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シタ公債ヲ募
集スルヲ得

第二條 一時借入金國庫債券及公債ノ額ハ通シテ二億八千
萬圓以內トス

本法及明治三十六年勅令第二百九十一号ニ依ル一時借入金國庫債
券及特別会計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル為必要ナル場
合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルヲ得

第三條 一時借入金國庫債券及公債ノ利率募集借入ノ

方法規約 振置年限及償還年限の命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 亦該條ノ施行ニ因リ國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ
規定スルノ外整理公債條例ヲ適用ス

臨時事件費支弁ノ関スル法律

(明治三十七年十一月
法律才十二号)

第一條 臨時事件費支弁ノ為政府一時借入金ヲ為シ國庫

債券ヲ発行シ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債

ヲ募集スルヲ得

前項ノ一時借入金 國庫債券及公債ノ額ハ通シテ四億五千五百

萬圓以內トス

第二條 明治三十六年勅令第二百九十一号 明治三十七年法律

第一號 同年勅令第二百二十八号 及本法ニ依リ國庫債券

及公債ノ發行價格差減款ヲ補填スルニ必要ナル場合ニ於テ

前條ノ制限以外ニ國庫債券ヲ發行シ公債ヲ募集シ又一時

借入金ヲ為スルヲ得

第三條 前二條ニ依リ一時借入金國庫債券及特別會計ニ

屬スル資金繰替ヲ整理償還スル為メ必要ニ堪ヘシ場合於テ

第一條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルヲ得

第四條 政府ハ臨時軍事費支拂上一時不足ヲ補充スル為

甚盛入ヲ以テ償還スルヲ大藏省証券ヲ發行スルヲ得

前項ニ依リ省証券ノ発行ハ前項ニ規定スルモノ外總テ大藏

省証券條例ノ規定ヲ適用ス

第五條 一時借入金國庫債券及公債ノ利率募集借入ノ方法

規約振替年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法

ニ規定スルモノ外整理公債條例ヲ適用ス

規定之モノ、外整理公債条例ヲ適用ス

大藏省令第四號

國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十七年二月十三日

大藏大臣 男爵曾禰荒助

(4)

國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依リ國庫債券
壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ五拾圓、百圓、五百
圓、千圓及五千圓ノ五種トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記
名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年以内ニ償還スルモノ
トス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ支拂フモノ

トス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾五圓

トス

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年三月一日ヨリ同

月十日マテトス

第八條 應募申込人ハ應募高應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申

込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其

他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但保證金ニハ利子ヲ附

セス

第九條 國庫債券應募高需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募

價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止

ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス但貳

百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セス

第十條 申込ハ明治三十七年三月二十一日マテニ確定スルモノ

第九條 國庫債券應募高需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ノ應募
價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止
ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス但貳
百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セス

第十條 申込ハ明治三十七年三月二十一日マテニ確定スルモノ
トス

確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲ス
ヘシ但第一回拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

- | | | |
|-----|-----------------|---------------------------|
| 第一回 | 三月二十一日 | 貳圓 <small>(券百圓ニ付)</small> |
| 第二回 | 四月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾五圓 <small>(同前)</small> |
| 第三回 | 五月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾五圓 <small>(同前)</small> |
| 第四回 | 七月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾五圓 <small>(同前)</small> |
| 第五回 | 八月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾圓 <small>(同前)</small> |
| 第六回 | 九月十六日ヨリ同月二十四日迄 | 拾五圓 <small>(同前)</small> |
| 第七回 | 十月十七日ヨリ同月二十五日迄 | 拾五圓 <small>(同前)</small> |
| 第八回 | 十一月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 八圓 <small>(同前)</small> |
- 發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二回拂込ト共ニ其差額

ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十四條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス

第十五條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ日本銀行本支店若クハ代理店ニ證明シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノ、外ハ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル

大藏省令第十七號

第二回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

(5)

明治三十七年五月二十三日

大藏大臣

男爵曾禰荒助

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス
第十五條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以
上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ日本銀行本支店若クハ代理店ニ證明
シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得
第十六條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノ、
外ハ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル

大藏省令第十七號

第二回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十七年五月二十三日 大藏大臣 男爵曾禰荒助

第二回 國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十七年法律第一號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ
發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ貳拾五圓、五拾圓、
百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又
ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券元金ハ募集ノ年ヨリ七箇年以内ニ償還スルモノ
トス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾貳圓ト

ス

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年六月十日ヨリ同月十六日マテトス但取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ六月十日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高、應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ付セス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高二割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十七年六月二十五日マテニ確定スルモノ

トス

確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ

第八條 願書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添へ日本銀行本支店
其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子
ヲ付セス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應
募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ
止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス
第十條 申込ハ明治三十七年六月二十五日マテニ確定スルモノ

トス

確定ノ上ハ其旨申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲ス
ヘシ但シ第一回拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

- | | | | | |
|-----|--------------------|---|----|-----------------------|
| 第一回 | 明治三十七年六月二十五日 | 貳 | 圓 | <small>券面百圓ニ付</small> |
| 第二回 | 同年七月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾 | 圓 | 同 |
| 第三回 | 同年九月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾 | 圓 | 同 |
| 第四回 | 同年十月十八日ヨリ同月二十五日迄 | 拾 | 圓 | 同 |
| 第五回 | 同年十一月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾 | 圓 | 同 |
| 第六回 | 同年十二月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 五 | 圓 | 同 |
| 第七回 | 明治卅八年一月十六日ヨリ同月廿五日迄 | 拾 | 五圓 | 同 |
| 第八回 | 同年二月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾 | 五圓 | 同 |
| 第九回 | 同年三月十六日ヨリ同月二十五日迄 | 拾 | 五圓 | 同 |
- 發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二回拂込ト共ニ其差額ヲ

拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂

込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名
ノ假債券ヲ交付シ全
シ

第十四條 前條ノ假債

前項ノ取扱ニ關シテ

第十五條 假債券ヲ紛

上ノ保證人ヲ立テ其

シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノ、

外ハ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル

大藏省令第八號

第四回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年二月二十七日

大藏大臣

男爵曾禰荒助

拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ應募額ノ全部又ハ一部ヲ一時ニ拂込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 國庫債券ノ應募者第二回ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十四條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス

第十五條 假債券ヲ紛失シ又ハ消滅シタルモノアルトキハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其事實ヲ日本銀行本支店若クハ代理店ニ證明シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノノ、外ハ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル

大藏省令第八號

第四回國庫債券發賣ノ規程左ノ通之ヲ定ム

(明治三十七年六月七日大藏省令第二十四號)

第十四條第二項ノ下ニ左ノ但書ヲ加フ

但應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ據リ其拂込ヲ假債券ニ記入スル代ニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

上ノ保證人ヲ立テ其

シ更ニ假債券ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 國庫債券取扱ニ關スル順序ハ本令ニ規定シタルモノ、
外ハ明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ據ル

大藏省令第八號

第四回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年二月二十七日

大藏大臣 男爵曾禰荒助

第四回國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十八年法律第十二號ニ依リ國庫債券壹億圓
ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ六トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其ノ種類ハ貳拾五圓、五拾
圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓、及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者
又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年九月ヨリ滿七箇年以内ニ
償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ仕拂フモノト

ス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九拾圓ト

ス

第七條 應募申込期間ハ明治三十八年三月二十五日ヨリ同月三十

一日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ三月二十五日

前ト雖モ其ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル

申込書ニ申込高百圓ニ付金四圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店

其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利

子ヲ附セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高

キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格

同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十八年四月十日マテニ確定スルモノトス

確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲ス

子ヲ附セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス
第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高
キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格
同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十八年四月十日マテニ確定スルモノトス

確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲ス
ヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 明治三十八年四月十日 金 四 圓(額百圓ニ付面)

第二期 同年四月廿四日ヨリ同月廿九日迄 金拾六圓(同上)

第三期 同年五月十六日ヨリ同月廿五日迄 金貳拾圓(同上)

第四期 同年六月十六日ヨリ同月廿六日迄 金貳拾圓(同上)

第五期 同年七月十七日ヨリ同月廿六日迄 金貳拾圓(同上)

第六期 同年八月十六日ヨリ同月廿五日迄 金拾圓(同上)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額
ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上
ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十八年十二月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘

ハラス左ノ區別ニ依リ仕拂フモノトス

- 一 第三期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年六月ニ於テ額面百圓ニ付金六拾五錢同年十二月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓貳拾五錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ
- 二 第四期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年十二月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓壹錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名

シ
ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス

但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假

翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子
ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ應募ノ申込
ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名

シ
ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス
但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假
債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキ
ハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對
シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル假債券ヲ

所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ
第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人
ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券
ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ

日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代
假債券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其ノ交付
手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十九條 國庫債券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ代債券ノ交付アリタル
後原債券ヲ發見シタル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店
ニ返還スヘシ國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス

第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノ、
外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

大藏省令第四十一號

第三回國庫債券發行規程左ノ通相定ム

大藏省令第四十一號

第三回國庫債券發行規程左ノ通相定ム

明治三十七年十月十二日

大藏大臣 男爵曾禰荒助

第三回 國庫債券發行規程

第一條 政府ハ明治三十七年法律第一號ニ依リ國庫債券八千萬圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得

第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年ヨリ七箇年以内ニ償還スルモノトス

第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ仕拂フモノトス
第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ九拾貳圓ト

第七條 國庫債券ノ應募申込期間ハ明治三十七年十月三十一日ヨ
リ十一月七日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ十月
三十一日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高、應募價格及住所姓名ヲ詳記シタル
申込書ニ申込高百圓ニ付金貳圓ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店
其他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子
ヲ付セス

前項ノ應募價格ニハ拾錢未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應
募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ
止ム其價格同シキモノハ申込ノ高二割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十七年十一月十八日マテニ確定スルモノト

確定ノ上ハ其旨ヲ申込人ニ通知スヘシ
區別ニ依リ拂込ヲ爲ス

募價格ノ高キモノヨリ順次債券ヲ交付シ需要額ニ滿ツルニ至テ
 止ム其價格同シキモノハ申込ノ高二割合ヒ減少スルモノトス

第十條 申込ハ明治三十七年十一月十八日マテニ確定スルモノト
 ス

確定ノ上ハ其旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲ス

- ヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第一期 明治三十七年十一月十八日 貳圓額面百圓ニ付
 - 第二期 同年十二月十六日ヨリ同月二十六日マテ 拾圓同
 - 第三期 同廿八年一月十六日ヨリ同月廿五日マテ 五圓同
 - 第四期 同年二月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾圓同
 - 第五期 同年三月十六日ヨリ同月二十五日マテ 拾五圓同
 - 第六期 同年四月十七日ヨリ同月二十六日マテ 貳拾圓同
 - 第七期 同年五月十六日ヨリ同月二十五日マテ 貳拾圓同
 - 第八期 同年六月十六日ヨリ同月二十六日マテ 拾圓同
- 發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其差額ヲ

拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若クハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十八年九月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘ラ

ス左ノ區別ニ依リ仕拂フモノトス

一 第四期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年三月ニ於テ額面百圓ニ付金六拾參錢同年九月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

二 第五期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年九月ニ於テ額面百圓ニ付金貳圓貳拾七錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込

ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及ヒ質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ
第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人

ヲ立テ其事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ
請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其旨ヲ日
本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此場合ニ於テ既ニ代假債
券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其交付手續中
ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第十九條 國庫債券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ代債券ノ交付アリタル
後原債券ヲ發見シタル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店
ニ返還スヘシ國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス

第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノノ
外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

大藏省令第二十六號

第五回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治二十八年四月二十日

大藏大臣 男爵曾禰荒助

ニ返還スヘシ國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス
第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノノ
外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

大藏省令第二十六號

第五回國庫債券發行規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年四月二十日

大藏大臣 男爵曾禰荒助

第五回國庫債券發行規程

- 第一條 政府ハ明治三十八年法律第十二號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス
- 第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ六トス
- 第三條 國庫債券ハ無記名利札附トシ其ノ種類ハ貳拾五圓、五拾圓、百圓、五百圓、千圓、五千圓、及壹萬圓ノ七種トス但シ應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ト爲スコトヲ得
- 第四條 國庫債券ノ元金ハ明治三十八年十一月ヨリ滿七箇年以内ニ償還スルモノトス
- 第五條 國庫債券ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ仕拂フモノトス

第六條 國庫債券ノ發行價格ハ額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九拾圓ト

第七條 應募申込期間ハ明治三十八年五月一日ヨリ同月五日マテトス但シ取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニ依リ五月一日前ト雖モ其ノ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募申込人ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金四圓ノ保證金ヲ添へ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニハ利子ヲ附セス

第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少シ割當高貳拾五圓ニ滿タサルモノハ之ヲ除キ更ニ之ヲ貳拾五圓以上ノ分ニ配當ス

第十條 申込ハ明治三十八年五月十五日マテニ確定スルモノトス確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス
第九條 國庫債券應募高、需要額ニ超過スルトキハ其ノ價格ノ高
キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格
同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少シ割當高貳拾五圓ニ滿タサ
ルモノハ之ヲ除キ更ニ之ヲ貳拾五圓以上ノ分ニ配當ス

第十條 申込ハ明治三十八年五月十五日マテニ確定スルモノトス
確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲ス
ヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 明治三十八年五月十五日 金四圓(額百圓ニ付)

第二期 同年六月十六日ヨリ同月三十日迄 金拾圓(同上)

第三期 同年七月十七日ヨリ同月廿六日迄 金拾六圓(同上)

第四期 同年八月十六日ヨリ同月廿五日迄 金拾圓(同上)

第五期 同年九月十六日ヨリ同月廿五日迄 金參拾圓(同上)

第六期 同年十月十六日ヨリ同月廿五日迄 金貳拾圓(同上)

發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額
ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ依リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上
ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十三條 明治三十九年三月渡以前ノ利子ハ第二條ノ利率ニ拘ハ

ラス左ノ區別ニ依リ仕拂フモノトス

- 一 第三期以前ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十八年九月ニ於テ額面百圓ニ付金壹圓拾八錢、明治三十九年三月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓貳拾五錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ
- 二 第四期以後ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ明治三十九年三月ニ於テ額面百圓ニ付金參圓參拾錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ仕拂フ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日步四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十四條 國庫債券ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收スヘシ

拂込期日後三箇月ヲ過キ尙ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第十五條 國庫債券ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假債券ヲ交付シ全額拂込ノ上ハ之ト引換ニ本債券ヲ交付スヘシ

第十六條 前條ノ假債券ハ賣買讓與シ及質ト爲スコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假債券ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假債券ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 第十四條第二項ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル假債券ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第十八條 假債券ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假債券ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假債券ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ
日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代
假債券ノ交付ヲ了リタルトキハ原假債券ヲ返還セシム其ノ交付
手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ
第十九條 國庫債券ノ紛失又ハ滅失ニ因リ代債券ノ交付アリタル
後原債券ヲ發見シタル者ハ速ニ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店
ニ返還スヘシ國庫債券ノ利札ニ付テモ之ニ準ス
第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノ、
外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

第二十條 國庫債券ニ關スル取扱順序ハ本令ニ規定シタルモノ、
外明治十九年大藏省令第三十號整理公債取扱順序ニ準據ス

國債の外國に於て募集する場合に關する法律

(明治三十三年四月法律第六十一号)

明治二十五年法律第四号鐵道敷設法明治二十九年法律第五
 十九号事業公債條例及明治二十九年法律第九号北海
 道鐵道敷設法及明治三十三年法律第七十五号皇清事
 業公債ニ於ル公債の外國に於て募集する場合に外國債
 票の證書の種類を記載し其證書の種類を令し
 振置年限募集債還利子計算及担保に關する方法
 其他必要なる手續を命令の以て之を定むルコトヲ得但債
 還期限は公債募集の年月日起算して五十五年ヲ起
 ムルコトヲ得ス

Handwritten text at the top of the page.

Handwritten text in the first column of the grid.

Handwritten text in the second column of the grid.

Handwritten text in the third column of the grid.

Handwritten text in the fourth column of the grid.

Handwritten text in the fifth column of the grid.

Handwritten text in the sixth column of the grid.

Handwritten text in the seventh column of the grid.

Handwritten text in the eighth column of the grid.

Handwritten text in the ninth column of the grid.

Handwritten text in the tenth column of the grid.

Handwritten text in the eleventh column of the grid.

Handwritten text in the twelfth column of the grid.

甲和英債公債募集の要文大衆省令

(明治三十一年五月
大衆省令第六十二号)

第一條 清國の利息英債公債三千萬磅、募集の權は

甲和英の同しと銀行、香港上海銀行、及び

一と銀行、銀行の間にありし之の度とし

と

第二條 此の公債證券は無記名利札とし英債の利息其

金額に記載の五磅、十磅、及五十磅の三種とし

第三條 此の公債の利率は一箇年百分の四とし

第四條 此の公債は元金、明治三十一年一月一日起英

二十六年間、振替券の発行は、明治三十二年六月より十月迄六回、
使直之り償還スル

才五、在公債、利子ハ毎年六月、十二月ニ於テ、
才六、在元金、掛込ハ明治三十二年六月より十月迄六回、
トシ本年分、利子ハ十二月ニ於テ、

六、利息公債募集ニ関スル勅令

明治三十七年五月
勅令第百三十八号

第一条 明治三十七年法律第二十号ニ依リ英國倫敦及北米合衆國
紐育ニ於テ要領公債千萬磅ヲ募集ス

本公債ノ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二条 本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ六トス

第三条 本公債ノ元金ハ明治四十四年四月五日ニ於テ額面金額

ノ半ノ之ヲ償還ス但シ明治四十四年四月五日以後ハ政府ノ都合

ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙リ以テ廣告シ其ノ

全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニ横濱正金銀行倫敦支店及樞法正

金銀の紐有出張所の貯蓄例に従て抽籤の執行に當る
之を公債証券に當りて元金に拂期日より一箇月前に
新聞紙に於て廣告するべし

第十四条 本公債の利率は毎年四月五日、十月五日、及び各其の月末
マテ、前六箇月分は併拂ふべし

第十五条 本公債証券は無記名利札附し、其債額を以て其金額
に記載し、百磅及び二百磅の二種トス

英領下米債ト、換算率、其債一磅を米債四弗八七仙
トス

第十六条 本公債の満期利札及償還券發給券の二志零片半
の一圓、割合にて關稅收納、為差支ナラシ受取らんべし

第十七条 本公債元金、償還、關稅收入ヲ以テ優先ニ担保セ
らん、モノトス

第八條 本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十三磅十志トス

第九條 本公債ノ元金ハ明治三十七年五月ヨリ八月ニテ毎月一回

宛四回ニ拂込ムベシ

前項公債募集金、於テハ本年十月五日ニ於テ前年同月分

ノ利子リハ拂クベシ

本令ハ貴布、日ヨリ之ヲ施行ス

本行在東京日本橋區

本行在東京日本橋區

本行在東京日本橋區

本行在東京日本橋區

本行在東京日本橋區

本行在東京日本橋區

第一回六分利英債公債募集之案之勅令

明治三十七年五月勅令
第二百二十九号

第一條 明治三十七年勅令第二百二十九号之依り英國倫敦及北

米合衆國紐育ニ於テ英債公債千圓百萬磅ヲ募集

ス

本債ハ引受人ノ定メテ受取行セシム

第二條 本債公債ノ利率ハ一年年百ノ六トス

第三條 本債公債ノ元金ハ明治四十四年十月五日ニ於テ親面金

額ヲ以テ之リ償還ス但シ明治四十年四月五日以後ハ政府

都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ

廣告し其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還高合ニ横濱正金銀行倫敦支店及横濱正

金銀行紐育出張所、於テ慣例ノ從ヒ抽換ヲ執行シ

当券シテ元公債証券、元春平ノ元金任拂、期日ヨリ一箇

月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スルコト

第四條 本公債ノ利子ハ毎年四月五日及十月五日ニ於テ各其月

末マテ、前六箇月分ヨリ任拂ルコト

第五條 本公債証券ハ無記名利札附シ英貨ノ以テ其金額

ヲ記載シ百磅及二百磅ノ二種トス英貨ト米貨トノ換美

率ハ英貨一磅ニ米貨四弗半七仙トス

第六條 本公債ノ満期利札及償還當券証券ハニ志零

片半ヨリ一圓ノ割合ニテ関稅收納ニ爲差支ナラ度取

スルコト

第七 条 本公債は利息、償還に關稅收入に以て担保とし、
但し其の項は明治三十七年五月發行の利息英債公債
に次ぐ

明治三十七年五月發行の利息英債公債償還の後、本
公債の關稅收入に以て優先に担保せらるべし

第八 条 本公債の發行價格は額面百磅を九十磅と志す

第九 条 本公債の元金は明治三十七年二月より明治三十八年二月ま

に拂込らるべし

前項公債の募集金は、明治三十八年四月五日、於て前年
箇年分の利子の半額を拂入す

德意志銀行

德意志銀行 德意志銀行 德意志銀行

德意志銀行

德意志銀行 德意志銀行 德意志銀行

德意志銀行 德意志銀行 德意志銀行

德意志銀行

德意志銀行 德意志銀行 德意志銀行

德意志銀行

德意志銀行 德意志銀行 德意志銀行

德意志銀行 德意志銀行 德意志銀行

甲子初年英債公債募集ニ関スル勅令

明治三十八年三月
勅令第七十八号

第一条 明治三十八年法律第百二十号ニ依リ英國倫敦及北米
合衆國紐約ニ於テ英債公債三千萬磅ヲ募集ス
本公債ノ利率人リ定メ引度發行セシム

第二条 本公債ノ利率ハ一箇年百ノ四半トス

第三条 本公債ノ元金ハ明治三十八年二月十五日ニ於テ額面
金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十二年二月十五日以後
ハ政府、都令ニ依リ何時ニテモ六個月前ニ新聞紙ヲ以
テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一、新債還、場合、横濱正金銀、倫敦支店、及横濱正
金、所有、紐育支店、亦、於、之、慣例、從、之、抽、答、之、執、行、し、事
答、之、人、公、債、証券、之、記、番、号、を、元、金、に、押、期、日、を、一、箇、月
前、に、新聞、紙、に、以、て、廣、告、す、べし

牙四、条、本、公、債、の、利、子、は、毎、年、二、月、十、五、日、及、八、月、十、五、日、に、於、て、各、其、の、
月、末、に、之、前、六、個、月、に、行、は、し、仁、押、す、べし

牙五、条、本、公、債、の、証券、に、無、記、名、利、札、附、し、英、貨、を、以、て、其、の、全、額、
の、記、載、之、百、磅、二、百、磅、及、五、百、磅、の、三、種、ト、ス

英、貨、ト、米、貨、ト、ノ、換、算、率、は、英、貨、一、磅、を、米、貨、四、弗、八、
十、七、仙、ト、ス

牙六、条、本、公、債、の、利、金、の、還、還、に、煙、草、專、賣、益、金、を、以、て、優、先、
に、担、保、せ、ら、れ、し、事、ト、ス

牙七、条、本、公、債、の、發行、價、格、の、額、面、百、磅、を、九、十、磅、ト、ス

... 俵... 百... 九... 十... 磅... 上... 又...

卯八条 本公債、元金、明治三十八年三月、同年七月、マテ、掛

込ムベシ

前項公債募集金、對シテ明治三十八年八月十五日、於テ金
申箇年分、利子ヲ又掛、マシ

臨時軍費支弁、為憲法第八條及第七十條
ニ依リ公債募集、勅令

明治三十八年七月
勅令第一九十四号

トシ得
政府臨時事件費支弁、為公債募集、
國ニ募集スルコ

前項公債、關シテ明治三十八年法律第十二號才五條
及才六條、規定ニ適用ス

大正十一年六月一日

東京市丸の内區丸の内三丁目

日本銀行

東京市丸の内區丸の内三丁目

東京市丸の内區丸の内三丁目

東京市丸の内區丸の内三丁目

東京市丸の内區丸の内三丁目

第二回四分半利率英債公債募集の事
勅令

明治三十八年七月
勅令第六百九十五号

第一條 明治三十八年勅令第六百九十五号に依り英國倫敦北

米分衆國紐育及獨逸國に於て英債公債壹千

萬磅發行する事

本公債の受人は定めて發行せしむ

第二條 本公債の利率は年百分の四半トス

第三條 本公債の元金は明治三十八年七月十日に於て額面

金額の以て之を償還する但し明治三十八年七月十日以後

に政府都合に依り何時にても六箇月前に新聞紙の

以下廣告し其全部又二部り償還スルコトヲ得

一 新債還 場合ニハ 移債トシテ 新債トシテ 償還スルコトヲ得

ニ 金取付 紐育 公債 亦及 不 獨 逸 國 田 定 之 場 亦 能

テ 償 還 之 從 七 抽 登 之 執 行 之 事 亦 能 之 以 債 證 券

ノ 記 者 早 々 元 金 任 拂 期 日 一 箇 月 前 新 聞 紙

ヲ 以 テ 廣 告 ス べ シ

分四條 本公債 利子 毎 年 一 月 十 日 及 七 月 十 日 於 各 其

月 末 三 日 前 六 箇 月 分 一 任 拂 之 事 也

分五條 本公債 證 券 之 無 以 名 利 社 附 上 之 英 債 之 以 其

全 額 之 一 部 之 二 十 磅 百 磅 及 二 百 磅 之 種 類 也

英 債 上 未 償 及 獨 債 上 之 換 美 庫 之 英 債 一 磅 分

未 償 四 井 八 七 仙 獨 債 二 十 二 林 四 十 五 布 上 也

分六條 本公債 元 利 償 還 之 煙 草 專 賣 益 金 之 以 其 担

保不但其價位八明治三十八年三月發行四分半利有

英債公債券千萬磅、次ハ

明治三十八年三月發行四分半利有英債公債償還、後ハ

本公債ハ煙草專賣益金以テ優先ニ担保セラルベ

ノ七条 本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅トス

ノ八条 本公債ハ元金ハ明治三十八年七月ヨリ同年十二月マテ

ニ掛込ム也

前項公債募集金ニ付シテハ明治三十九年一月十日ニ於テ

全年箇年分ハ利子ヲ任拂フ也

朕國債整理、為明治三十七年法律第一號及同三十八年法律第十二號ニ依リ公債ヲ募集スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十八年十一月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎

大藏大臣 男爵 曾 福 荒 助

勅令第二百四十一號

第一條 政府ハ國債整理ノ為明治三十七年法律第一號及同

三十八年法律第十二號ニ依リ四分利付英債公債五千萬

磅ヲ發行ス

第二條 前條英債公債五千萬磅、内二千五百萬磅ハ發行

價格額面百磅ニ付九十磅ヲ以テ英國倫敦、佛國巴里、北
米合衆國紐育、及獨逸國ニ於テ募集シ二千五百萬磅、明
治三十七年五月及同年十二月英國倫敦及北米合衆國紐
育ニ於テ募集シ九六分利付英債公債二千二百萬磅、引
換又ハ償還ニ充用スル為茂行ス其引換ノ方法及時期ハ
大藏大臣之ヲ定ム

第三條 前條六分利付英債公債引換又ハ償還ニ充用スル為
茂行スル公債ノ内引換餘剩高ハ現金ヲ以テ之ヲ募集ス
募集ノ時期及茂行價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本公債ノ元金ハ明治六十四年一月一日ニ於テ額面金額
ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治五十四年一月一日以後ハ政府ノ都
合ニ依リ何時ニモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ
全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニ横濱正金銀行倫敦支店ニ於テ慣例ニ
從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シル公債證券ノ記番號ハ元金
仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スル

第五條 本公債ノ利子ハ毎年一月一日及七月一日ニ於テ前六箇月
分ヲ仕拂フヘシ

第六條 本公債證券ハ無記名利札付トシ英貨ヲ以テ其金額
ヲ記載シ十磅、二十磅、百磅及二百磅ノ四種トス

英貨ト米貨、獨貨及佛貨ト、換算率ハ英貨一磅ニ付米
貨四弗八十七仙、獨貨二千麻四十五布トシ佛貨ハ英貨一磅
ニ付最低率ヲ二十五法ト定メ仕^付期日ニ於ケル英佛兩國間
ノ為換相場ニ依ルモノトス

第七條 本公債ノ元金ハ明治三十八年十二月ヨリ同三十九年
五月マテニ拂込タヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十九年一月一日及同
年七月一日ニ於テ各金半箇年分ノ利子ヲ仕拂フベシ

自是年九月二十五日ニ至ルモ...

第四年八月二十五日...

第五年七月二十五日...

第六年六月二十五日...

第七年五月二十五日...

第八年四月二十五日...

第九年三月二十五日...

第十年二月二十五日...

第十一年一月二十五日...

第十二年十二月二十五日...

明治三十九年十月大藏大臣一答申摘要

(前略)

因テ此ノ事業ト金融トノ調和如何ニ就キ考フルニ直ニ五億五千萬圓ト云ハ頗ル過大ニ聞ユルモ此等ノ事業ハ決シテ一朝ニシテ完成スルモノニ非スシテ全部拂込ヲ了スル迄ニハ必ス数年ノ歲月ヲ要スルモノトス今假ニ三四年ニテ漸次拂込ヲ了スルモノトスレハ一ケ年平均凡一億幾千萬圓ヲ出テス今後尚引續キ新規ノ計畫アリトスルモ数年ニ亘リ拂込ヲ為ストキハ急劇ニ資金ノ需要ヲ起スニ至ラサル可シ而シテ其ノ財源如何ト云フニ戰時中軍資金トシテ仕拂ハレタル金額ハ現今迄ニ凡拾五億七千萬圓アリ内八月末迄ニ海外一流出セリト認ム可キ正債ノ高凡六億七千萬圓

ヲ差引クモ九億円ハ内地ニ散布セラレタルモノニシテ
其ノ輾轉シテ民間市場ヲ潤澤セルモノ亦少カラサル可
ク而シテ戦時中ヨリ國民一般勤儉ノ美風ニ慣レ戦
争終結後、今日ニ至ルマテ尚此習慣ヲ保持スルカ
如クナレハ市場資金ノ供給亦少カラサル可シ又近来
外資流入、端緒開ケ自然外資ノ市場ニ入り来ルモ
ノアリ之ヲ将来ニ推スニ内外金利ノ懸隔ハ急ニ平均
ス可クモ非サレハ尚引續キ多少外資ノ流入ヲ見ルヲ
得ヘシ此等ノ点ヨリ考フルトキハ今日ノ程度ニ於ケル
事業擴張新設ノ計畫ニ對シ漸次資金ノ拂込ヲ
為スニ於テハ未タ遽ニ憂慮ス可キニ非サルヲ認ムル
ナリ

以上述フル所、如ク大体上ヨリ觀察スルトキハ事業

ノ興起ハ國家進運上頗ル喜フ一キコトニ屬ス然
レトモ事業ヲ計畫スルモノトシテ資金ヲ供給スル銀
行家トシテ其ノ態度自カラ相異ナラサルヲ得サル
モノアリ即チ事業家ハ國家ノ為メ又自己ノ為メ有利
ナリト認ムル所ハ十分邁往奮進スルコトヲ要スルト同
時ニ銀行家モ亦國家ノ為メ自己ノ為メ其ノ資金融
通上ニ就キ十分ナル警戒ヲ加フルコト是ナリ蓋銀
行ノ貸出資金ハ主トシテ預金ニ依ルモノナルカ故何時
其引出ノ請求ニ遇フモ直ニ之ニ應スルノ覺悟アルヲ
要ス故ニ其ノ事業ニ放資スルヤ單ニ其ノ事業ノ確實
ナリト云フヲ以テ安心ス可キニアラス必ス十分ニ貸出先
ノ資力信用ヲ調査シ其果シテ期限ニ至リ正確ニ返
濟シ得ルヤ否ヤヲ確メサル可カラス若シ然ラスシテ單ニ

其ノ事業カ確實ナリト云フノ理由ヲ以テ証據金拂込
証等ヲ担保トシテ貸出ヲ為スカ如キコトアランカ一
朝貸出先資力缺乏シテ拂込ヲ果サ、ル場合ニハ銀
行ハ其ノ貸金ヲ損失トスルカ或ハ其ノ株式ヲ引受ケ
拂込ノ義務ヲ負擔セサル一カラス事以ニ至レハ銀行ハ
其ノ株式ニ應募シ預金ヲ変シテ株式ニ固定セシ
メタルノ事實トナリ融通ノ途ハ全ク閉鎖セラレ預金
ノ取付ニ遇フモ之ニ應スルコト能ハサルニ至ル一シ況ヤ
其ノ引受ケタル株式低落シ損失ヲ受ケルカ如キ場合
ニ逢フ着セリトスレハ銀行ハ破産ニ陥ルノ不幸ヲ免カ
レサル一シ又幸ニシテ其ノ事業ハ確實ニシテ結局其
ノ引受ケタル株式ヨリ相當ノ利益ヲ收ム一シトスルモ資
金ノ輾轉利用ヲ本領トスル銀行トシテハ既ニ其ノ主

義ヲ失ハルノミナラス一朝市場ノ形勢一変シテ金融
ノ逼迫ヲ告グルニ至リテハ今日過剩ニ苦メル預金ヲ急
劇ニ引出シ請求セラルニ至リ亦遂ニ仕拂停止ノ厄
運ニ遭遇スルニ至ラン故ニ事業資金ノ需要起ルニ際
シテハ銀行家ハ有益ノ企業ヲ應援スルト同時ニ慎テ
資金ノ固定ヲ避ケ以テ事業ト金融ノ調和ヲ得セシ
ムルコトヲカムヘキナリ

本職ノ見ル所以上述フル所ノ通りニ候ニ付本行ノ
中央金融機関トシテ施設スル所モ一ニ其ノ方針ニ
依リ可成國家有益ノ事業ヲ幫助スルト同時ニ放
資ノ途ニ就テハ十分慎重ノ警戒ヲ加ヘ以テ御内訓
ノ旨趣ニ相遵ヒ可申心得ニ御座候右内申仕美也

3



公債證書、價格維持ハ軍國財政上緊要、急務ト奉存候然ルニ現行、制度之ニ適セサルモノアリ取急キ改正、必要アリト存候マ、別紙、通り當路諸公、建議致候意見見貫徹候様御帮助、榮ヲ得ハ幸甚

東京市芝區芝公園第十七号八番

明治三十七年十月十二日

渡邊

亨



日本銀行總裁松尾臣善殿

公債證書、價格維持

海外ニ於ケル我國債、價格ハ戰勝ノ餘威ヲ以テシテ猶且露國公債、價格ニ及ハサルハ國民ノ遺憾トスルトコロナリ是レ一ニハ終局ノ勝利ニ關シ疑ヲ懷クモノアルニ由リ或ハ我國富ノ程度露國ニ數等ヲ輸スト誤解セラレツ、アルニ由ルヘシト雖トモ其直接ノ原因ハ彼ニアリテハ公債價格維持、爲メニ政府ノ力ヲ用ウルニ反シ我ニ於テハ自然ノ成行ニ放任シ居ルノミナラス寧ロ其價格ノ上進ヲ妨害シツ、アルニ職由セスンハアラ

何ヲカ公債價格上進ノ妨害ト云フ、取引所稅
即チ是ナリ現行法ハ定期取引ニ付商品及有
價證券ハ賣買約定代金萬分、六箇、國債及地
方債證券ハ同萬分、三箇ヲ徵シ猶非常特別
稅法ニ依リ商品及有價證券ハ萬分、三箇、國
債及地方債證券ハ萬分、二箇ヲ增徴セラル
此故ニ公債證書ノ定期取引ヲ爲セントスル
ニハ賣買者雙方ヨリ賣買價格ノ萬分、五ツ
、ノ租稅ヲ納メサルヘカラス之ニ加フルニ
取引所ノ純手數料及仲買人口錢ヲ以テスル
トキハ額面百圓ニ付賣買者各拾七錢ヲ、(假

トキハ額面百圓ニ付賣買者各拾七銭ツ、（假

東京株式取引所手数料表ニ依ル即チ取引
所手数料七銭八厘仲買人口銭九銭貳厘）ヲ支拂ハサル
ヘカラス公債證書ノ如キ利率ノ一定不變ナ
ル物件ノ賣買ニ如此高率ノ手数料ヲ支拂ハ
サルヘカラストセハ誰カ又其ノ定期取引ヲ
行フモノアラシヤサレハコソ我取引所ニ於
テハ公債證書ハ全ク定期市場ヨリ驅逐セラ
レ僅カニ直取引ノ附出直段ニ依リテ體面ヲ
粧ヒ實際ノ賣買ハ仲買人又ハモグリ仲買ノ
店頭ニ於テ陰然行ハレ居ルニ過キス而カモ
如キ秘密賣買ハ公定相場ヲ缺クヲ以テ仲間
媒込者ノ私曲行ハレ易キノミナラス需給ノ
投合不自然ニシテ賣者ニ對シ善價ヲ得ス買

者ニ對シ不慮タルヲ免レス
夫レ國債證券ハ有價證券中信用最モ厚ク且
普及的ノモノナレハ其價格ノ高低ハ極メテ
自然的ニ金融ノ繁閑ト相照應シ其高低ハ以
テ資本放下ノ標準タルヘク其集散ハ金融ノ
消長ヲ支配スヘク經濟社會ノ羅針一二之ヲ
公債價格ノ上ニ求ムヘキモノナレハ其流通
的ナルコト紙幣ト相距ル一步ノミニ過キヤ
ルヘキニ我國ニアリテハ定期市場ニ上ラザ
ル為メ日々ノ公定相場ヲ缺キ郵船會社株及
諸鐵道會社株等定期取引市場ノ流行株ノ為
メニ金融市場ノ代表證券ノ位地ヲ奪ハレ了

ノニ金融市場ノ代表證券ノ位地ヲ奪ハレ了

リテ顔色ナシ其結果我公債ハ内ニアリテハ
小口ノ賣物ニヨリテ其市價ヲ抑ヘラレ外ニ
アリテハ倫敦ニ於ケル投機者ノ掛引ニヨリ
テ價格ヲ左右セラレ其一昂一低ニ喜憂ヲ分
ツノ迂ヲ演スルニ至レリ抑々我國取引所稅
ノ過重ナルヤ吾界無比ニシテ之ヲ為メニ秘
密賣買ノ惡弊ヲ生シ委託者ト仲買人トヲ相
食マシメ仲買人ノ品位ヲ墮落セシメ取引所
ノ効用ヲ没却セシムルコト痛歎ノ至ニ堪ヘ
ズ經世ノ士ノ宜ク思フ潛メテ研究セサルヘ
カラサルトコト特ニ公債證書ニ對シ如此自
繩自縛ノ結果ヲ来シ國家自ラ國家ノ信用ヲ

打破シ殆ト財政機關ノ獨立ヲ保チ得サルニ
至テハ軍國ノ財政策トシテ一日モ其危険ヲ
看過スルコト能ハサルナリ
若シ公債證書、取引所稅ヲ全廢センカ公債
證書ハ定期市場ニ於テ賣買セラレ隨テ金利
相當ノ市價ヲ保チ國庫債券ヲシテ七分八厘
強ノ利廻リニ低落セシムルカ如キコト無力
ルヘク又隨テ途ニ倫敦ニ於ケル我公債價格
ヲ維持スルコトヲ得庶幾クハ敵國ヲシテ我
財政ニ對スル翻弄手段ヲ逞フセシメサルヲ
得シカ況ンヤ公債證書、取引所稅ハ法文上
ノ虚飾ノミニシテ明治三十三年乃至三十六

ノ虚飾ノミニシテ明治三十三年乃至三十六

東洋原製

年ノ統計ニ據ルニ全國取引所ノ納税額左ノ如クニシテ

年 度

國債地方債定期取引價格

同取引所稅

明治三十三年

四四、二〇九^四

二六、^四五二

同 三十四年

四一、二四六

二四、七五

同 三十五年

二、〇〇四

一、二〇

同 三十六年

五、七五一

三、四五

國庫ノ收入殆ント記スルニ足ラス非常特別稅ニ於テ従来ノ萬分ノ三ニ萬分ノ二ヲ加ヘラレシ如キハ全然無意味ノ舉ニ屬シ之ヲ全廢スルモ毫モ國庫ノ憂トスルトコトニアラヤレハナリ

若夫レ會計官吏、身元保證金、取引所營業保證金、其他政府、徴スルトコロ、各種保證金、代用トシテ公債證書ヲ額面以下、市價ニテ指定スル現行制度、如キモ國家自ラ國家ノ信用ヲ打破スルモ、宜ク之ヲ改メテ額面若クハ其發行價格ヲ以テ指定セラルヘク、或ハ高法ノ規定ヲ改メ株式會社ヲシテ貸借對照表ヲ調製スルニ方リテ公債證書ノ評價ハ一少クトモ積立金ノ範圍以内ニ於テハ額面若クハ發行價格ヲ以テスルコトヲ得セシムル如キモ亦公債價格維持ノ一法タルヘシ思フニ戰局永續、為ノ自今猶巨額ノ内外公

思フニ戦局永續、為シ自今猶巨額、内外公

債發行、必要アルヘク公債價格、維持ハ軍
國財政ノ要義タルヘシ當路、諸公速ニ改制
ノ策ヲ建テラレヨ

一、其、書、之、目、
國、姓、姓、之、書、之、目、
計、其、行、之、書、之、目、
公、前、前、許、之、書、之、目、
公、前、前、許、之、書、之、目、

欽定四庫全書

傳

大臣

次官

理財局長

公債課長

松尾日奉
行總裁

神野

理財局
國庫課

鈴木

勝田

債大第七號

公債募集收入金利殖方法ニ関スル件

今般当地市場並北米合衆國市場ニ於テ募集相成リタル帝國公債
一千万磅ノ收入金ニ當分ノ間当地ニ於テ保管可相成、然レハ右收入金利
殖ノ方法ヲ購スルハ國費多端ノ際最モ必要ナル事ト被存候、
參考迄ニ左ニ卑見開陳致候

公債收入金ヲ現金ヲ以テ英蘭銀行ニ預入スルコト最安全ナル方法
ニモ有之又便宜ノ場合ニ應ニ何時ニテモ之ヲ引出シ或ハ本國面送ニ或ハ當
地ニ於ケル仕拂ニ充ルルコトヲ得ルノ便有之惟獨其利殖ノ点ヨリ見レハ決
テ以テ東ノ得ルモノトハ申シ難ク一方ニ年々六十万磅ノ利子ヲ支拂フニ拘ラズ收入
元金全ク利子ヲ生セテハ缺點有之候ハ實際ニ必要ノ許スル範圍内
ニ於テ保管ノ安全ヲ缺カサル方法ヲ以テ何等カノ利殖方法ヲ講シ度希

事

吉高

望ニ御座候

公債收入金ヲ以テ当國大蔵省証券ヲ購入スルコトハ官ノ最モ確實ニ
 且利益見所ト信ス所ニ有之其實行ヲ切望致候当大蔵省証券
 ハ別ニ利子ヲ附ヤス割引ヲ以テ發賣致シ期限ニ至リ額面金額ヲ以テ仕
 拂フモノナルカ故ニ一旦買入後ハ公債等如ク相場ノ高低ナラズ殊ニ其償還
 期限ハ多クモ一箇年ヲ起フルコト無之ニ付最モ確實安全ナルコトハ更申ス
 迄ナク又清國債金皆清ノ際ノ實際ニ依リテ明白ニ証明セラル所ニ候今
 回ノ帝國公債ハ勿論使用ノ必要アリテ募集シタルカ故ニ長期間他投
 以見シ或ハ全部ノ投以見ヲ為スカ如キハ事情ノ許ス所ニ至ルハ勿論儀存候
 得共將來ノ使途ヲ豫則シ其一部分限リ短期ニ償還ヲ受クヘキ当大蔵
 省証券ニ投以見スルコトハ敢テ望ミ難キ所ニアラズ被察候目下市場利
 率ハ二分九カ故ニ大蔵省証券ノ割引利子如何ニ依席ニ見積ルモ一分
 五厘以下ニ落ルカ如キコトナルヘキヲ以テ仮リニ割引利子一分五厘トシテ計算

スルモ公債收入金ノ三分一即チ約三百万磅ヲ一年間同証券ニ投資スルニ於テ
八百万九千五百磅ノ利子ヲ生シ收入金ノ半額即チ五百萬磅ヲ一年間投資スル
ニ於テハ七万五千磅ノ利子ヲ生シ候割合ニ所産候者金額ハ何等ノ不利益
若ハ不便ヲ生スルコトナクシテ利殖セラルモトモ其後金額ハ左述大ナラセモ
國費多端ノ際決シテ觀過スヘキモノニアラスト存候

通貨ノ膨脹ハ物價ノ騰貴ヲ來シ輸出ノ減退輸入ノ増加トナリ遂ニ正貨ノ
流出ヲ來スコトハ一般孝理ノ説明ニ所シテ又我國從來ノ例ニ徴スル兌換
券ノ發行高ニ億圓ヲ超過シタトキハ常ニ輸入超過正貨流出ヲ招クノ事
實ヲ見候今若シ公債收入金ヲ直チニ本國ニ回送スルトキハ勿論現金以テ英
蘭銀行ニ預入スルトキニ於テモ正貨ヲ本國ニ回送シ或ハ当地於テ外國宛仕
拂ニ供スル極メテ簡便ナルカ爲メ知ラズ直接又ハ向接ニ日本銀行正貨
準備ノ膨脹ヲ來シ從テ兌換券發行高ノ激増トナリ通貨膨脹ノ弊ニ
臨ムノ危険有之候況若シ當大藏者証券ニ投資スルニ於テハ萬一ノ必

要ノ場合ニ該証券ヲ以テ保証準備ノ一部ニ歸スル方法ニ出見トシ得ルニ然
ラズ限リハ全ク保証準備ノ外ニ置クコトヲ得ヘキニシテ又今保証準備ノ部
ニ入ル場合ニ於テモ保証準備ニ重ク兌換券ノ發行額ニ貸入場合ニ異
リ制限アルヲ以テ上記ノ如キ正貨流出ノ禍害ヲ生セサヘク此点ニ於テ國家經
濟上利之所不尠ト被存候

或ハ公債收入金利殖ノ方法トシテ英蘭銀行以外ノ銀行ノ預入セントノ説
ナキニアラズヤ及候得共此ノ如キ爲全ク缺クノ方法ヲ採ラトスレバ徒ラニ
利ヲ見テ害ヲ見セモノト申ササルヲ得ヌ又整頓公債其他ノ有價証券カニ
投資スルカ如キハ公債爲万策ノ必要ト相容セサルニテ又市價ノ変動常ナキヲ
以テ其危険ナルト申スレモナキ所ニ候

当國大藏省証券投資ノ件ニ関シテハ既ニ明治三十年一月廿七日附債第二
號ニ以テ詳細開陳致置候ニ依リ茲ニ重クテ詳述不致候得共其確
實ニシテ有利ナルコトハ疑フ不容所ニ者之候ハ在リ關シ手續等御詮儀上

之カ実行ノ運ニ相成候様致度即参考迄ニ此段申進候致具

明治三十七年五月廿五日

在倫敦總領事

荒川巳次

大藏大臣男爵曾禰荒助殿

追ニ参考ノ為本年五月十二日現在ノ大藏省証券左ニ附記致候

金額	償還期限	発行期日	平均割引利子
一〇〇〇、〇〇〇 <small>磅</small>	一九〇四年五月廿八日	一九〇三年十月廿八日	三、 <small>磅</small> 一三、七
二、四一三、〇〇〇	六月廿四日	六月廿四日	三、一三、六
一、五〇〇、〇〇〇	七月三日	七月三日	三、二、三

理論上より観察

(5)

三十七年九月廿五号及び十月廿九日

高田早夫

國庫債券及増税と金融との關係

日本銀行

目次

数次国庫債券ノ発行ト増税ヲ實行セシニ拘ラス金融市場
ノ蒙レル影響ノ著シカラザル所以

(一) 戦時ノ金融界ニ於ケル資金供給増加ノ傾向

一 勤勞ノ増加

二 貯蓄ノ増加

三 資本家放資心ノ変化

(二) 国庫債券松込金ノ出所

一 金融市場

二 金融市場以外

三 松込中ニ於ケル貯蓄

(三) 増税ノ收入金ト金融市場トノ関係

(四) 軍事費ノ着所

(四) 第一 金融市場

一 金融市場の概観

二 金融市場以外

(五) 括論

一 金融市場

二 金融市場の歴史

三 資本市場

四 債券市場

五 貨幣市場

一 貨幣市場の概観

二 貨幣市場の歴史

三 貨幣市場の機能

数次國庫債券ノ發行ト増税ヲ實行セシ
ニ拘ラス金融市場ノ蒙ル影響ノ著

シカラザル所以

西國ト開戦以降我政府ハ已ニ内國ニ於テ二億八千
万圓ノ國庫債券ヲ發行シテ十月迄ニ一億一千七百萬
圓ノ資金ヲ吸收シ又増税ヲ決行シテ是ヲ約二千
万圓ヲ國庫ニ收入セシニ拘ラス金融市場ハ頗ル平
穩ニシテ未ク金利ノ昇騰ヲ示サズ殆ド此ノ影響者カモ
蒙ラザルモノ、如ク却ツテ開戦以後各銀行ノ預金ハ増
加シ郵便貯金モ亦減少ヲ告ゲザルナリ是ハ一見頗ル
奇ナシガ如シト雖少シク金融界ノ真相及軍國經濟
界ノ實狀ト國庫債券拂込資金ノ出所及軍費散
布ノ狀況トヲ明ニスル所ハ敢テ怪ムコト是ラザルヲ知ル今

試ニ少シク之カ説明ヲ加ヘン

(一) 戦時ノ金融界ニ於ル資金供給増加ノ傾向

米國ノ經濟學者ヘンリー・シー・アダムス博士其著「公債論」ニ述ベテ曰ク金融市場ニ提供セラシム、高品ハ信用ニシテ其之ヲ買フモノハ流動資本トナリト然リ金融市場ニ取引セラシム、目的物ハ流動資本ニ外ナラザルナリ故ニ金融市場ニ於テ流動資本ノ供給増加スルトキハ之ニ伴フテ信用ノ提供増加スルモ甚カシキ動搖ヲ來サシムラ當然トス何トナレバ需要供給ノ原則ハ金融市場ニモ亦行ハル、モリテテ需要ノ増加ニ伴ヒ供給増加スルモノ其取引物品ノ市價(金融界ニ取引セラシム、高品ハ資金ニシテ其市價ハ金利トス)ハ騰貴スル能ハザルナリ

戰時ニ於テハ、ニ方面ヨリシテ市場ニ於ル資金、供給ヲ増加スルノ傾向ヤンモノトス其一ハ積極的ニ流動資本ヲ増加スルモノニシテ其二ハ現在ノ資本ヲ固定ヨリ流動ニ変換スルモノトス積極的ノ増加ニ三原因アリ

一、勤勞ノ増加

二、貯蓄ノ増加

三、資本家放資心ノ變化

何レノ代何レノ國ヲ問ハズ戦争ハ必ズ國民ノ勤儉貯蓄心ヲ鼓舞スルモノナリ内ニ家居セルノ家族ニシテ其出征兵士ノ艱苦ヲ思ハバ他人ノ勸告ヲ待タズ飽衣暖食ヲ恣ニスルナク自ラ奮起節約ヲナス人ノ常情トス就中今回、如キハ開戦當時ヲシテ識者風ニ

勤儉貯蓄ヲ唱道セシテ以テ國民ノ勤儉貯蓄心ト
為メニ大ニ覺醒シ其結果生産力ヲ増加シ貯蓄ノ増
加ヲ求セシヤ必セリ

又戰時ニ在リテハ金利ノ關係及商工業ノ不振若ク
ハ危險等ヲ有シテ有價証券ノ市價ハ低落ノ傾向ヲ
有スルモノニシテ之ニ及ビ平時ニ於テハ國運ノ進歩ニ伴
ヒ騰貴ノ傾向アルモノトス市價ノ騰貴スルニ際シテハ
競フテ之ガ買入ヲ望ミ其下落スルマク争フテ之ヲ手放
サントスルハ人ノ情トス故ニ資本家ハ平時ニ於テハ其資
金有價証券ニ放下セシテラ希望スルモノニ戰時ニ於テハ之
ガ固定ヲ欲セザンナリ為メニ戰時ノ金融市場ハ平時ヨ
リモ新ニ一資源ヲ得ルモノナリ而カモ此資源タムヤ戦争
ノ影響ニシテ國運ノ進歩ヲ沮害セザン限リハ決シテ